

令和 8 年

一級建築士設計製図の試験「課題の概要説明会」

課題名	ホテル
-----	-----

- I. 学科試験の結果
- II. 発表課題の分析
- III. TACオリジナルプラン
- IV. 合格のために不可欠な要素
- V. TACの講座について
- VI. 開講までの準備

I. 学科試験の結果

■総得点

94 点

■科目基準点

計画 11 点、環境 11 点、法規 16 点、構造 16 点、施工 13 点

-
- ・上記は、TACが独自に集計しているデータリサーチを基に推定したものです。
 - ・上記の合格推定点にわずかに達しない方については、学科試験に合格した後、5回のうち任意の3回の設計製図試験を受験できることを踏まえて、合格に自信が持てず中途半端な気持ちで設計製図試験対策を始めるよりは、9月2日の学科試験の合格発表を待って、めでたく合格された際に翌年の設計製図試験に向けて課題発表前の早期から対策を始めるという選択肢もありますので、ご検討ください。
 - ・また、次の制度もご確認ください。

TAC設計製図本科生特別返金制度

令和8年学科試験の合格発表日（9/2予定）から3日以内の解約申し入れにつきましては、TACが公表した合格推定点（94点）から2点以内、つまり **92点以上で不合格** の場合はお支払いの設計製図本科生受講料から¥30,000を除き、返金します（入会金は除く）。

Ⅱ．発表課題の分析

■課題名

ホテル

■要求図書

- ・ 1 階平面図・配置図（縮尺 1/200）
- ・ 各階平面図（縮尺 1/200）
※各階平面図については、試験問題中に示す設計条件等において指定する。
- ・ 断面図（縮尺 1/200）
- ・ 面積表
- ・ 計画の要点等

■建築物の計画に当たっての留意事項

- ・ 敷地の周辺環境や**既存建築物の現状保存**に配慮して計画する。
- ・ バリアフリー、省エネルギー、二酸化炭素排出量削減、セキュリティ等に配慮して計画する。
- ・ 各要求室を適切にゾーニングし、明快な動線計画とする。
- ・ 建築物全体が、構造耐力上、安全であるとともに、経済性に配慮して計画する。
- ・ 構造種別に応じて架構形式及びスパン割りを適切に計画するとともに、適切な断面寸法の部材を計画する。
- ・ 空気調和設備、給排水衛生設備、電気設備、昇降機設備等を適切に計画する。

「大地震等の自然災害が発生した際に、建築物の機能が維持できる構造計画とする」
の一文がなくなりました！

■注意事項

「試験問題」及び上記の「建築物の計画に当たっての留意事項」を十分に理解したうえで、「設計製図の試験」に臨むようにしてください。

なお、建築基準法等の関係法令や要求図書、主要な要求室等の計画等の設計と条件に対して解答内容が不適合又は不十分な場合には「設計条件・要求図面等に対する重大な不適合」等と判断されます。

公表内容の分析

1. 「要求図書」について

「要求図書」の公表内容は、昨年と全く同じです。

平面図については、「各階平面図については、試験問題中に示す設計条件等において指定する。」と示されました。これは計画建築物の階数が試験当日の「**課題文で具体的に示される**」または「**課題文にも示されない(階数自由)**」ということになります。建築物の階数が試験当日まで分からないというのは、令和2年から7年続いて示されているので「近年の定番」です。どんな階数の建築物でも対応できるような対策が必要でしょう。

また、平面図は3面または2面求められることが多く、次のようなパターンが想定できそうです。

- ① 「1階平面図・配置図」「2階平面図」「3階平面図」
- ② 「1階平面図・配置図」「2階平面図」「基準階平面図」
- ③ 「1階平面図・配置図」「基準階平面図」「最上階平面図」
- ④ 「1階平面図」「2階平面図」

2. 「建築物の計画に当たっての留意事項」について

「建築物の計画に当たっての留意事項」の公表内容は、抽象的な内容ではありますが、採点に大きく関わる非常に大事なところです。「注意事項」にあるとおり、「十分に理解したうえで」試験に臨まなければなりません。

今年度は「**既存建築物の現状保存に配慮して計画する**」という内容が新たに加わったことが大きなポイントになります。既存の建築物があり、その部分は現状のまま保存しつつ、今回の新しいホテルを計画するという、想定の良い要素です。この点において参考となるのが、過去の平成17年「防災学習のできるコミュニティ施設」です。この年の出題は、敷地内に既存部（16m×12m）があり、「既存部と新設部を一体的な平面計画とし、調和のとれた立面計画とする」といった内容でした。

さらに、昨年及び一昨年に記載のあった「**大地震等の自然災害が発生した際に、建築物の機能が維持できる構造計画とする。**」の一文は、今回記載がなくなりました。

3. 「注意事項」について

「注意事項」の公表内容も、昨年と全く同じです。

建築基準法令等の関係法令や要求図書、主要な要求室等の計画等の設計と条件に対して解答内容が不十分な場合には、「設計条件・要求図面等に対する重大な不適合」、つまり「失格」と判断されるので注意が必要です。

発表用途について

今年度の「ホテル」は、設計製図試験の用途としては9年ぶりの出題となります。過去には「小規模なリゾートホテル」が平成29年、「ビジネスホテルとフィットネスクラブからなる複合施設」が平成20年に出題されました。

1. ホテルの種類

●シティホテル、ビジネスホテル

→駅近、市街地等に想定され、7階建て程度までの「**基準階タイプ**」としての出題が考えられます。

●リゾートホテル

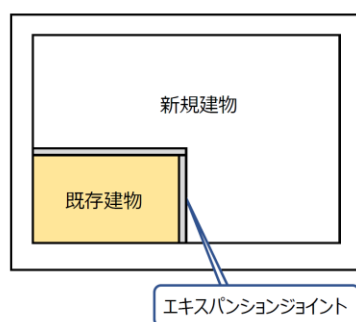
→景勝地等に想定され、3階建て程度までの「**低層階タイプ**」としての出題が考えられます。

ホテルの種類や建物の階数によって計画の仕方が変わるため、どんなホテルにも対応できるような学習をしておく必要があります。

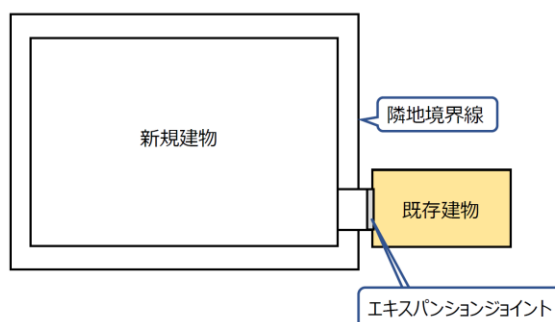
2. 既存建築物の現状保存に配慮した計画

どのような出題がされるかは分かりませんが、平成17年本試験のような新設部と既存部を各階で接続させて行き来できるような計画とする等、様々な想定をしておく必要があります。

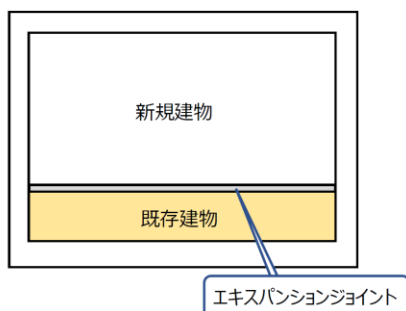
A：既存建物が新規建物の形状に影響する
(既存部はエントランスホール等として利用)



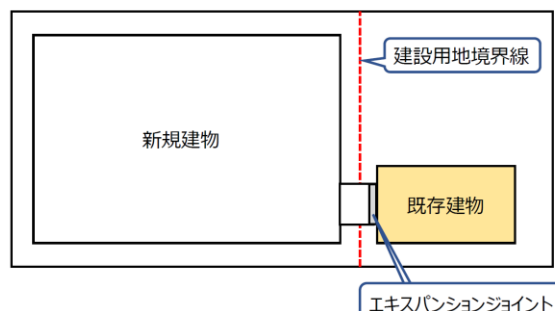
C：別敷地の既存建物とブリッジ等でつなぐ計画
(既存部はホテルの付属施設)



B：既存建物が新規建物の形状に影響しない
(既存部のファザード保存等)



D：同一敷地内の既存建築物とブリッジ等でつなぐ計画
(既存部はホテルの付属施設)



3. 法規について

近年の試験では、法規に関する条件への適合が「合格に必須」となっています。

これまでの試験では「建蔽率」、「容積率」、「高さ制限（道路斜線等）」、「延焼のおそれのある部分」、「防火区画」、「避難規定（歩行経路、歩行距離、重複距離、敷地内通路）」等についての適合が求められてきました。毎年、多くの受験生が法規ミスを犯して「失格」となってしまったことから、法規の対策は徹底しておくべきです。

設計課題 防災学習のできるコミュニティ施設

I. 設計条件

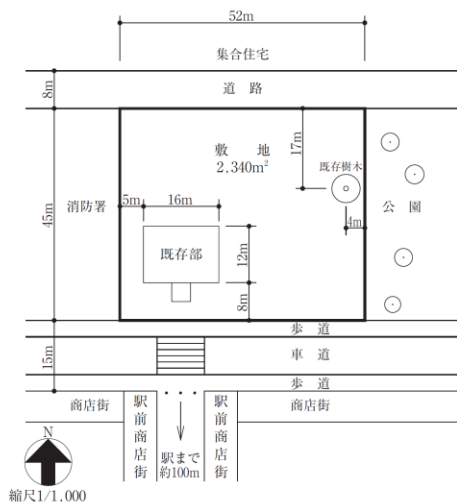
この課題は、ある都市の市街地において、ランドマークとして地域住民に親しまれるような建築物の一部を築いたもの(以下「既存建物」という。)を活用して、災害に関する知識や対応について学習・体験ができる「防災学習部門」と地域住民の交流や自己啓発を支援するための「集会・生涯学習部門」とからなるコミュニティ施設を計画するものである。また、災害時においては、東側の公園に避難した住民に対する支援活動の場となるものとする。

計画に当たっては、特に次のことが求められている。

- ① 新設部の設計と既存部を改修する設計を行うものであり、新設部と既存部は、一体的な平面計画とし、調和のとれた立面計画とする。
- ② 防災学習部門、集会・生涯学習部門及び共用・管理部門を適切にゾーニングした計画とともに、各部門間の動線に配慮した計画とする。

1. 敷地及び周辺条件

- (1) 敷地の形状、接道条件、周辺状況等は、下図のとおりである。
 - ① 北側——道路(幅員8m)を挟んで集合住宅がある。
 - ② 東側——災害時には避難場所となる公園がある。
 - ③ 南側——道路(幅員15m)を挟んで商店街がある。
 - ④ 西側——消防署がある。
- (2) 敷地は、平坦で、道路及び隣地との高低差はないものとする。また、歩道の切り開きは、1箇所当たり6mまででできるものとする。
- (3) 敷地は、近隣商業地域及び準防火地域に指定されている。また、建ぺい率の限度は80%、容積率は40%である。
- (4) 敷地内にある既存樹木(高さ12m、根及び枝張り直径6m)は、現位置に保存するものとし、この範囲内には建築物を計画してはならない。
- (5) 電気、ガス及び上下水道は、完備している。
- (6) 地盤は良好であり、杭打ちの必要はない。
- (7) 気候は温暖で、積雪についての特別の配慮はしなくてよい。



2. 建築物

新設部及び既存部は、各階で接続させて行き来できるように計画する。
新設部及び既存部の条件は、下表のとおりである。なお、既存部の平面図、
立面図及び断面図は、下書用紙に示すとおりである。

項目	新設部	既存部
構造・階数	・ラーメン構造による鉄筋コンクリート造(一部鉄骨造としてもよい)、地上2階建とする。	・ラーメン構造による鉄筋コンクリート造、地上2階建の建築物の一部を残したものである。
規模	・床面積の合計は、1,416㎡以上、1,916㎡以下とする。	・床面積の合計は、384㎡(各階の床面積192㎡)以上、2,300㎡以下とする。
その他	・新設部及び既存部の床面積の合計は、1,800㎡以上、2,300㎡以下とする。なお、この課題の床面積の算定においては、ピロティ、ポーチ、塔屋、バルコニー、屋外階段、屋外テラス等は、床面積に算入しないものとする。	・耐震改修は既に行われているものとし、主要構造部は、撤去してはならない。ただし、設備配管用の小開口は設けてもよい。
設備	・空調設備は、空冷ヒートポンプパッケージ方式とする。	・南側壁面は保存すること。
その他	・新設部の柱心は、既存部から1.5m以上離すこと。	・新設部と接続できる位置は、下書用紙の平面図に点線で示す位置とする。
	・エレベーター(機械室が不要なものとする)は、乗用1基(13人乗)を設ける。	・1階床高は、G.L.+300mmである。
	・主要な階段は、幅を1.4m以上、けありの寸法を16cm以下、踏面の寸法を30cm以上とする。	
	・主要なスロープは、幅を1.5m以上、勾配を $\frac{1}{12}$ 以下とする。	

3. その他の施設等

- (1) 多目的広場を次のとおり計画する。
 - ① 地上に設けるものとし、まとまったスペース(直径10m以上の円が1つ入るスペースとし、既存樹木を含めてもよい。)で200㎡以上(ビロティ、土間に屋根、ひさし等がある部分は算入しない。)とし、公園と一体的に利用できるようにする。
 - ② 災害用備蓄倉庫との動線に配慮する。
 - ③ 多目的広場の地盤面下に防火水槽(5m×10m)を計画する。
- (2) カフェテラス(30㎡以上)を、喫茶室の屋外に設ける。
- (3) 駐車場は、地上に平面駐車とし、車いす使用者として2台分、サービス用として2台分を設ける。

なお、車いす使用者用の駐車場は、幅を3.5m以上とし、主要な出入口からの距離ができるだけ短くなる位置に設ける。

また、利用者及び職員用の駐車場については、近隣の公共駐車場を利用するものとし、考慮しない。
- (4) 駐輪場は、利用者用として10台分(1台当たり0.5m×2m程度)を設ける。
- (5) ごみ置場(10㎡)を設ける。
- (6) 敷地内の通路に設けるスロープは、幅を1.5m以上、勾配を $\frac{1}{15}$ 以下とする。
- (7) (1)～(6)のその他の施設等は、床面積に算入しないものとする。

4. 所要室

下表の室は、新設部又は既存部のいずれかに、すべて計画する。

部門	室名	床面積	特記事項
防災学習部門	防災学習室	約 80m ²	・防災・救護に関する講習会等に利用する。
	地震体験室	約 100m ²	・地震を疑似体験できる。
	煙体験室	約 120m ²	・火災時に発生する煙を疑似体験できる。
	防災シアター	約 100m ²	・防災に関する映画等を上映する。 ・地上1階に設け、天井高は、6m以上とする。
	展示ホール	約 70m ²	・防災意識を喚起する展示等に利用する。 ・防災シアターのホワイエを兼ねる。 ・吹抜けを設ける。
	防災ライブラリー	約 40m ²	・防災に関する図書や映像等による学習に利用する。 ・PC端末スペースを5席設ける。
集会・生涯学習部門	倉庫(1)	適宜	
	集会室	約 100m ²	・サークル活動、各種講座等に利用する。 ・可動間仕切りにより2室(約50m ² /1室)に分割して個別に利用できるようにする。
	調理実習室	約 100m ²	・料理教室等に利用する。 ・収納スペースを設ける。
	和室	約 50m ²	・茶道教室、華道教室等に利用する。 ・収納スペースを設ける。
	工作室	約 80m ²	・木工教室、陶芸教室等に利用する。 ・収納スペースを設ける。
	パントリー	適宜	・集会室及び和室に対する湯茶のサービスに利用する。
共用・管理部門	倉庫(2)	適宜	
	喫茶室	約 80m ²	・カウンター、テーブル、いす等を設ける。 ・カフェテラスからも直接アプローチできるようにする。
	エントランスホール	適宜	・風除室を設ける。 ・40m ² 以上の吹抜けを設ける。
	管理事務室	約 50m ²	・受付カウンターを設け、防災学習部門及び集会・生涯学習部門の利用者の入退館の管理を行う。 ・エントランスホールに隣接させる。
	医務室	適宜	・管理事務室に隣接させる。
	講師控室	適宜	
	便所	適宜	・各階に設ける。 ・車いす使用者にも対応した多機能な便所を併設する。
	災害用備蓄倉庫	約 100m ²	・多目的広場から利用しやすい位置に設ける。 ・食料、飲料水、生活必需品、医薬品、発電機等を備蓄する。
	電気・機械室	約 100m ²	・地上1階に設ける。

(注) 上記の床面積の合計(適宜を除く。)は、約1,170m²となる。

II. 要求図面等

設計製図答案用紙の定められた枠内(寸法線は枠外でもよい。)に、黒鉛筆を用いて記入する。

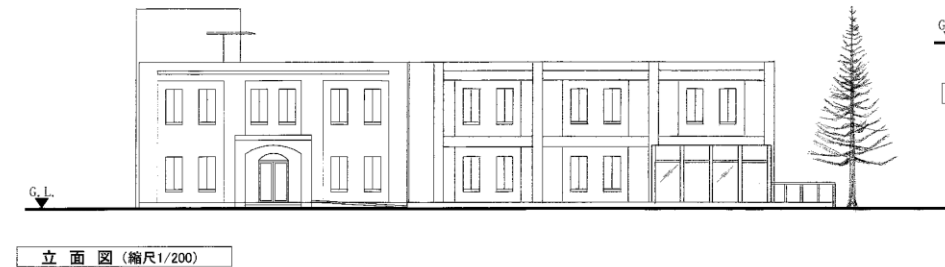
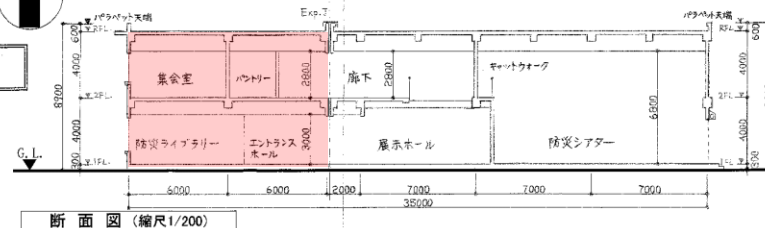
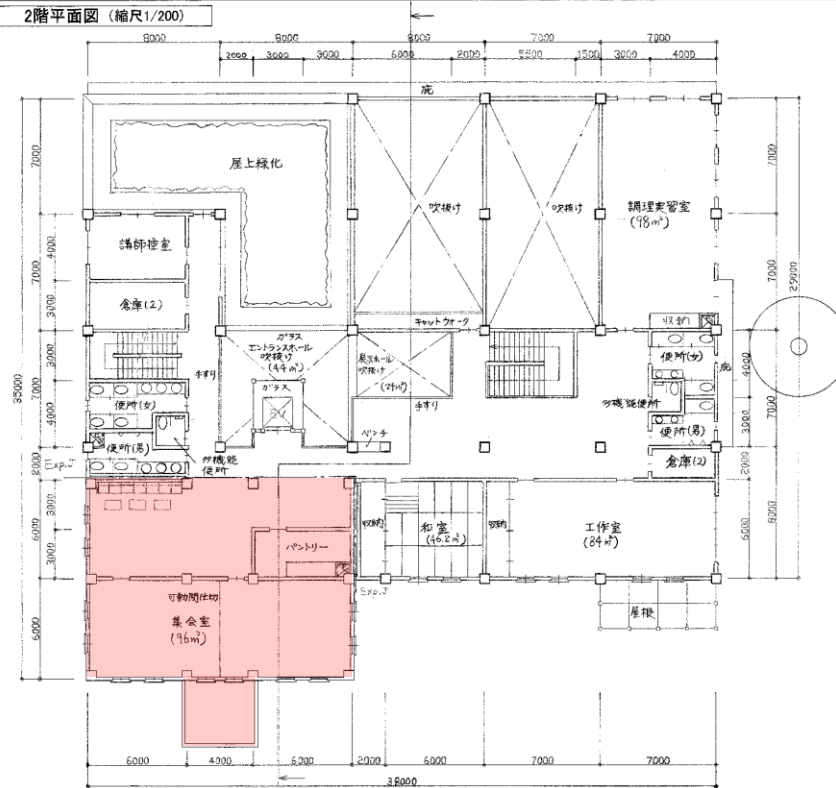
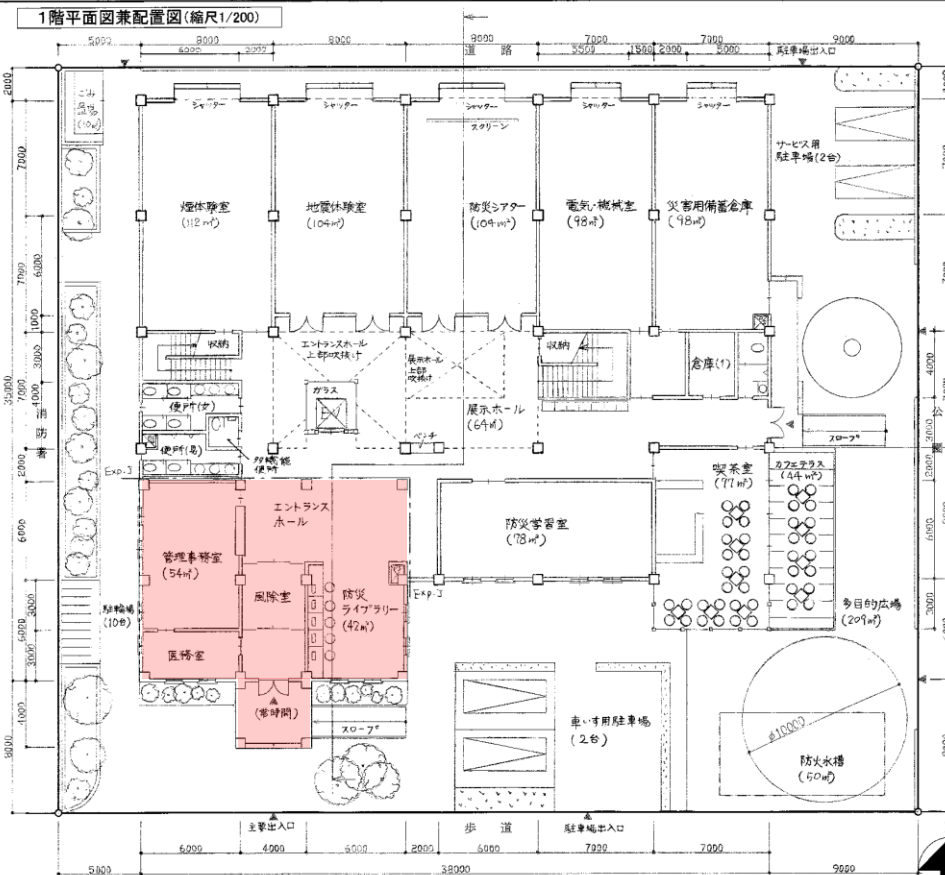
1. 要求圖面

下表により、所定の図面を作成し(フリーハンドでもよい)、必要な事項を記入する。

図面及び縮尺	特記事項
(1) 1階平面図 兼 配置図 1/200	① 建築物の主要寸法(柱間及び床面積の計算に必要な程度)を記入する。 ② 室名等を記入する。 ③ バイブシャフトの位置を図示し、PSと記入する。 ④ エキスパンションジョイントの位置を一点鎖線で明示し、Exp.Jと記入する。
(2) 2階平面図 1/200	⑤ 1階平面図兼配置図には、次のものを図示する。 イ. 断面図の切断位置 ロ. 建築物の出入口 ハ. 多目的広場(面積を記入し、防火水槽の位置を図示する。) ニ. カフェテラス(面積を記入し、テーブル、いす等を図示する。) ホ. 駐車場(台数及び出入口を明示する。) ヘ. 駐輪場(台数を明示する。) ト. ごみ置場 チ. 通路・植栽等 ⑥ 防災学習室、地震体験室、煙体験室、防災シアター、展示ホール、防災ライブラリー、集会室、調理実習室、研究室、工作室、喫茶室、管理事務室、災害用備蓄倉庫、電気・機械室の床面積を記入する。 ⑦ 直下階の屋根、ひさし等となる部分を図示する。 ⑧ 抜上げとなる部分を図示する。 ⑨ 印刷されている既存部には、壁、出入口等を図示する。
(3) 立面図 1/200	① 南側立面図とする。 ② 既存部は、印刷されている図面のとおりである。 ③ 既存樹木が見える場合には、その部分を図示する。
(4) 断面図 1/200	① 切断位置は、新設部、既存部及びエキスパンションジョイントを含み、建築物の全体の立体構成(1階及び2階)がわかる断面とする。なお、既存部の断面については、下書用紙に示すA-A断面図を参考とする。また、水平方向、鉛直方向の省略は行わないものとする。 ② 塔屋を除く建築物の高さ、階高、天井高、1階床高及び主要な室名を記入する。 ③ 梁及びスラブの断面を図示する。なお、基礎については図示しなくてよい。

2. 面 積 表

各階の床面積(既存部を含む。)及びその合計を記入する。なお、各階の床面積については、その算定式も記入する。

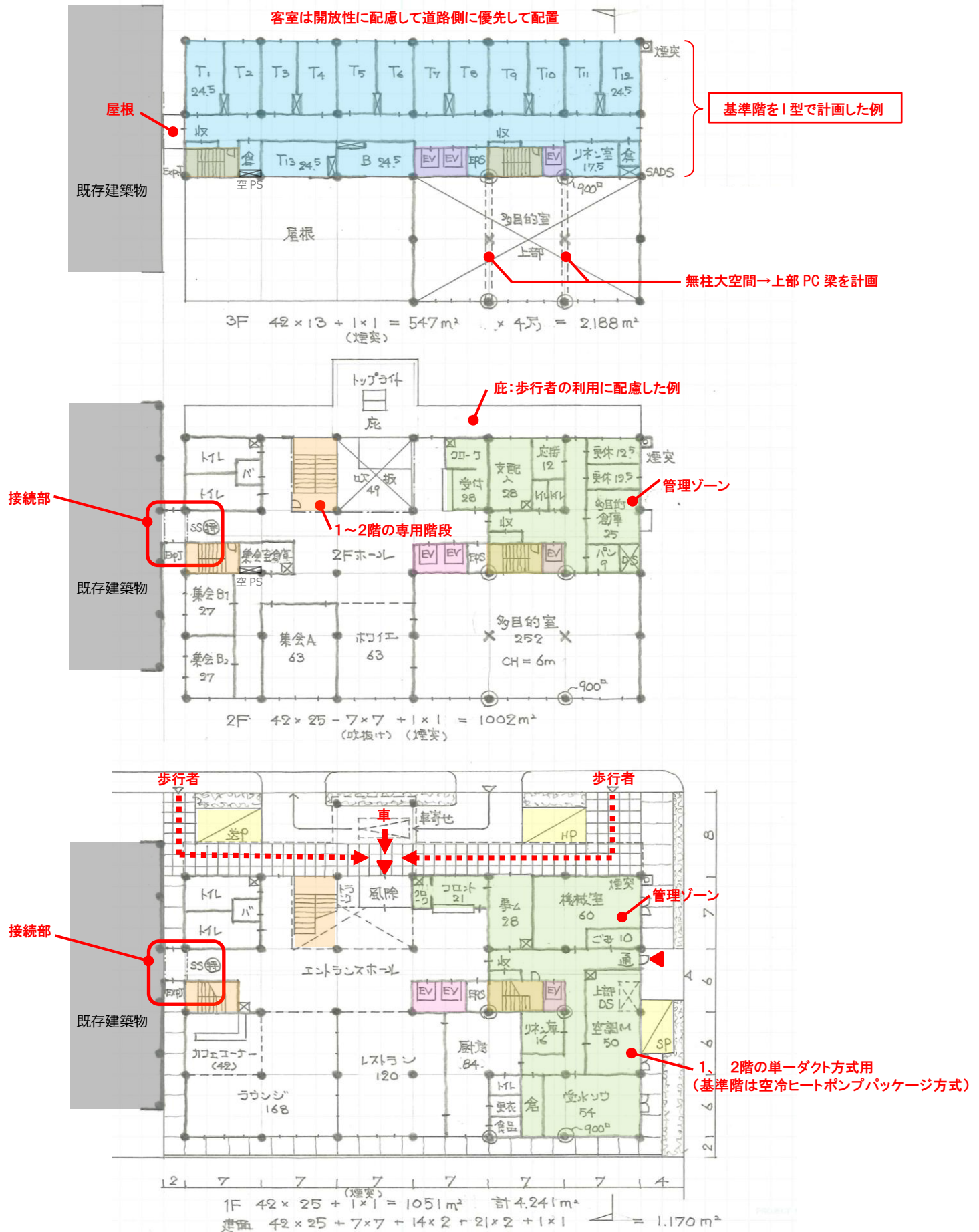


禁無断転載・複写

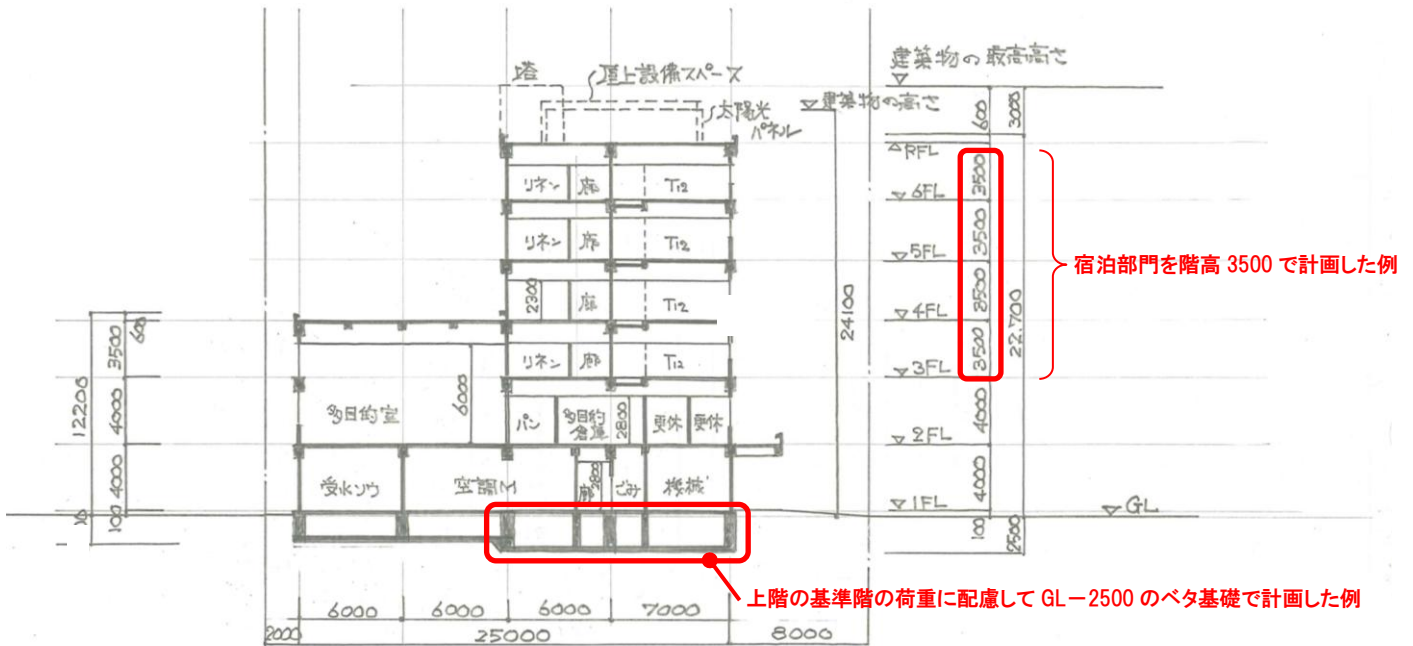
面積表 (算定式は、床面積の算出過程がわかるものであればよい。また、算出結果は、小数点以下第1位までとし、第2位以下は切り捨てる。)		
床面積	1 階 (算定式)	1219.0 m ²
2 階 (算定式)	16 × 28 + 22 × 15 + 7 × 14 + 7 × 8 + (7 × 8 - 3 × 4) - (6 × 4)	752.0 m ²
合計		1971.0 m ²

標準解答例 ① (この標準解答例は、合格水準の標準的な解答例を示すことを意図したものです。)

Ⅲ. 令和8年一級建築士設計製図【ホテル】オリジナルプラン（暫定版）



地上6階建ての計画例

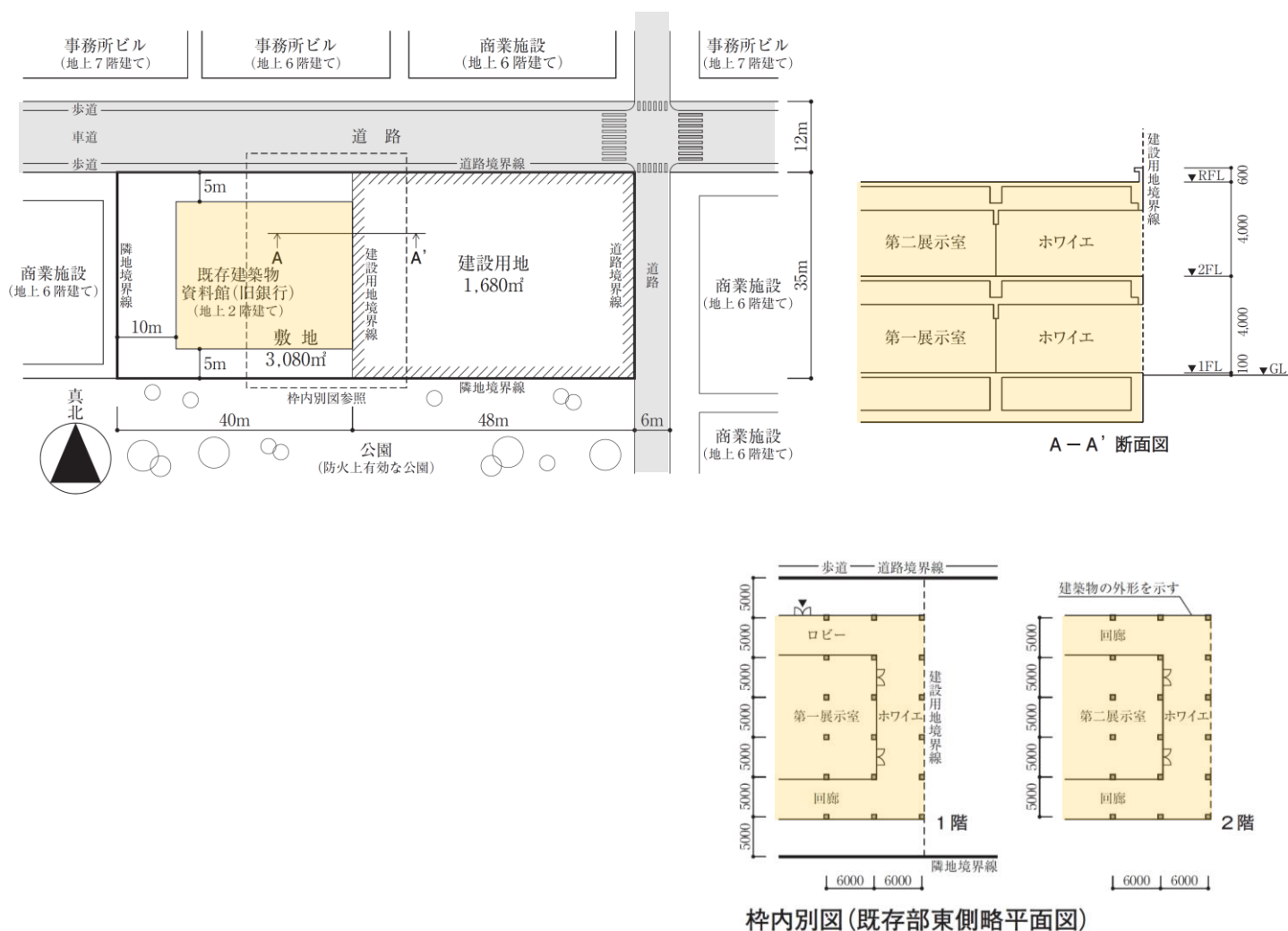


敷地面積 3080m

既存部建西 720m²
新設部 1.131m² } 計 1851m² (60.0%)

既存部面積 1.440m²
新設部 4.241m² } 計 5.681m² (18.4%)

【※TACオリジナルプランの敷地条件】



Ⅳ. 合格のために不可欠な要素

1. 課題文の読み取り力

要求された条件に対し適切に解答するには、課題文を正しく読み取ることが不可欠です。マーカー等により、読み落としや読み間違いをなくす対策が重要となります。

2. ゾーニングと動線計画が適切なプランニング力

設計製図試験では、空間構成で足切りにすると明示されています。ここで空間構成とは、ゾーニングや動線計画あるいは建築物の立体構成を指すと考えられます。

3. 作図における表現力とスピード

過去の合格者は、本試験までの期間に少なくとも 20 枚以上の答案を作成しています。作図については、表現力とスピードをアップするため、ある程度の練習量をこなすことが合格には不可欠です。

4. 図面と整合した計画の要点を記述する力

計画の要点は、「問われたこと」に対して、「図面と整合した内容で記述すること」が最低限求められます。事前に記述の要領を覚え、明快な文章を書く練習をしておく必要があります。

5. 図面を自己チェックする力

自分の計画、図面に漏れ落ちがないか、チェックすることが合格に不可欠です。とくに、「法令違反」は即「失格」となるので、絶対に落としてはいけません。

V. TACの講座について

1. TACの指導方針

① 完全消化できる厳選した課題を提供する

前述の「作図力」、「プランニング力」、「チェック力」を身に付けるために、一つ一つ確実に消化できる練習課題を提供します。答案例の構成を分析した上で、一つの課題についてプランB、プランCと何度もやり直す（リトライする）ことによって、本当のプランニング力が身に付きます。

② サプライズを当てにいかない

「設計条件を簡素化（シンプル化）する」という新試験制度に基づき、練習課題はオーソドックスな内容とし、奇抜な条件の設定はしません。

③ 一貫したプランニングの定石を指導する

「設計の自由度を高める」という新試験制度に基づき、練習課題は基本的なプランニングが学習できる内容とし、定石が通用しないような設定はしません。

④ ゾーニング・動線計画を徹底指導する

プランニングの軸となるゾーニング・動線計画については、建物の利用者の視点に立った全体構成に重点を置き、細部にこだわり過ぎない指導を徹底します。

⑤ メリハリのある作図表現を徹底指導する

図面の印象度は線種の使い分けにより左右されます。文字を含めて図面がメリハリのある表現となるような指導を徹底します。

2. 開講コース（設計製図本科生）

① スケジュール・講義内容等

●教室講座

●オンラインライブ通信講座

●Web 通信講座

2026年合格目標 一級建築士 設計製図本科生日程表

初回講義までに、製図用具をご用意ください。

ご注意ください

■教室講座 講義時間 9:30~19:00

■オンラインライブ 講義時間 9:00~18:30

無料体験可能（要予約）（製図用具必要）

※締切になったクラスは無料体験できません。

※オンラインライブクラスは無料体験は受け付けておりません。

回	講義日程				教材発送日程			課題	講義内容(予定)	製図用具
	土曜クラス	日曜クラス	水曜クラス	Web視聴開始日	Web通信教材発送日	オンラインライブ【日曜クラス】教材発送日	オンラインライブ【水曜クラス】教材発送日			
1	8/1(土)	8/2(日)	8/5(水)	8/7(金)	8/5(水)	7/29(水)	7/31(金)	課題1	・試験概要、当年度課題の特色、構造・設備の基礎知識 ・製図用具の使い方、基礎製図、作図手順（平面図・断面図） ・作図練習課題を使った作図練習（トレース）	必要
2	8/8(土)	8/9(日)	8/12(水)	8/14(金)	8/12(水)	8/5(水)	8/7(金)	課題2	・法令の留意点を学習する ・課題文の読み取りポイント、作図表現上の注意点の学習・文章表現の意味、計画の要点記述の書き方の学習 ・巡回指導・宿題返却指導	
3	8/15(土)	8/16(日)	8/19(水)	8/21(金)	8/20(木)	8/12(水)	8/14(金)	課題3	・課題文のマーカの仕方、読み取り ・エスキスの仕方、エスキス実習、作図実習 ・巡回指導・宿題返却指導	
4	8/22(土)	8/23(日)	8/26(水)	8/28(金)	8/26(水)	8/19(水)	8/21(金)	課題4	・採点ポイントの理解・自己チェックの養成 ・エスキス実習→自分のエスキスからの作図実習 ・巡回指導・宿題返却指導	
5	8/29(土)	8/30(日)	9/2(水)	9/4(金)	9/2(水)	8/26(水)	8/28(金)	課題5	・プランニング・作図力の向上と作図時間の短縮を目指す ・巡回指導・宿題返却指導	
6	9/5(土)	9/6(日)	9/9(水)	9/11(金)	9/9(水)	9/2(水)	9/4(金)	課題6	・模擬試験(1)による実力確認	
7	9/12(土)	9/13(日)	9/16(水)	9/18(金)	9/16(水)	9/9(水)	9/11(金)	課題7	・プランニング・作図力の向上と作図時間の短縮を目指す ・巡回指導・宿題返却指導	
8	9/19(土)	9/20(日)	9/23(水)	9/25(金)	9/24(木)	9/16(水)	9/18(金)	課題8	・模擬試験(2)による実力確認	
9	9/26(土)	9/27(日)	9/30(水)	10/2(金)	9/25(金)	9/23(水)	9/25(金)	課題9	・プランニング・作図力の向上と作図時間の短縮を目指す ・巡回指導・宿題返却指導	
10	10/3(土)	10/4(日)	10/7(水)	10/7(水)	10/2(金)	9/30(水)	10/2(金)	課題10	・課題10のエスキス+作図実習 ・巡回指導・宿題返却指導 ・直前確認事項と総復習	

土曜クラス：仙台校・水道橋校・新宿校・池袋校・渋谷校・横浜校・名古屋校・京都校・梅田校・なんば校・広島校・福岡校
日曜クラス：札幌校・水道橋校・新宿校・早稲田校・池袋校・八重洲校・立川校・町田校・横浜校・日吉校・大宮校・津田沼校・名古屋校・京都校・梅田校・なんば校・神戸校・広島校・福岡校・オンラインライブ(柿木クラス)
水曜クラス：新宿校・梅田校・オンラインライブ(大屋・根岸クラス)

※オンラインライブクラスは振替不可（ご登録のクラスにのみご参加いただけます）。

- カリキュラム、発送日程、課題数は、発表される課題内容や試験分析に基づき変更となる場合があります。変更の場合はTAC WEB SCHOOLマイページにてお知らせいたします。

【一般教育訓練給付制度をご利用の方へ】

修了試験（Web修了試験）は、TAC Web School上「学習フォロー」>「Web答練」で実施します。

【実施期間】2026年8/21（金）～9/14（月）

▶【Web通信生限定】オンラインスクーリング（担当：大屋） ※教室生・オンラインライブ生の方はご参加いただけません。

「ひとりで製図対策を進めるのは不安」「他の人はどのくらいのレベルなの？」「質問や相談に即時で答えてほしい」等、Web生には色々な不安や悩みがあると思います。TACではWeb生にも担任制を導入し、課題発表後から2週間に1回程度のペースでオンラインスクーリングを実施します（Zoom）。

他の受講生の答案を共有しながら作図やエスキスのポイント、ミスしがちなところを解説し丁寧に課題のフォローアップを図ります。そして終了後には、毎回質問会も開催！みなさんのお困りごと解消＆モチベーションUPの後押しができればと考えておりますので、本試験まで一緒に粘り強く取り組んでいきましょう！

【参加方法】実施前日までに、TAC WEB SCHOOLマイページトップに、参加用のURLを掲載いたします。

【準備物】インターネット通信環境、Zoomが使える端末（スマートフォン、タブレット端末、パソコン等）

回数	日程
第1回	2026年 8/12(水) 19:30～
第2回	2026年 8/26(水) 19:30～
第3回	2026年 9/ 9(水) 19:30～
第4回	2026年 9/23(水) 19:30～
第5回	2026年 10/7(水) 19:30～

※日程変更等の場合はTAC WEB SCHOOLマイページにてお知らせいたします。

② 受講料

●教室講座	341,000 円（税込・教材費込）
●オンラインライブ通信講座	341,000 円（税込・教材費込）
●Web 通信講座	264,000 円（税込・教材費込）

③ 割引制度

再受講割引制度

同一級に限ります

通常受講料より

一級 **30%割引!**
二級 **40%割引!**

過去にTACで「総合設計製図本科生」「設計製図本科生」を受講されていた方が、再度「総合設計製図本科生」または「設計製図本科生」のどちらかを受講される場合、再受講割引が適用になります。

※他の割引制度との併用はできません。

25歳以下の方必見

アンダー25コースについて

通常受講料より **¥22,000 割引!**

講座お申込み時点で26歳のお誕生日を迎えていない方、または学生の方は、2026年合格目標「総合設計製図本科生」「設計製図本科生」の受講料を¥22,000割引します。お申込み時に身分証明書または学生証を確認します。

※早割・セット申込割引・学科生割引に対応したアンダー25コースもあります（右ページ）。
※他の割引制度との併用はできません（TAC取扱代理店（大学生協・書店等）割引は除く）。

④ 返金制度

開講前 返金

講座開始日前の解約の申し入れにつきましては、受講料全額を返金いたします（入会金¥10,000を除く）。

※教室講座は開講日、通信メディアは初回発送日の5営業日前に、解約申請が必要です。

設計製図本科生 特別 返金制度

※総合設計製図本科生は返金対象外です。

2026年学科本試験の合格発表日から3日以内の解約申し入れにつきましては、TACが2026年学科本試験翌日に公表した合格推定日からマイナス2点以上で不合格となった方に限って、¥30,000を除いた受講料を返金いたします（入会金¥10,000を除く）。

※申請の際には合否証明が必要です。

設計製図本科生 返金制度の概要（総合設計製図本科性は特別返金対象外）

同一級に限ります



返金制度の 注意事項

※各返金制度の返金対象には、入会金¥10,000（10%税込）は含まれません。

※各返金制度をご利用の方は、返金後は対象コースを引き続き受講できません。また、付随する教材類も返却していただきます（通信講座の方は発送済の教材類をお客様の送料負担でご返却いただきます）。

※各返金制度の振込手数料は、お客様負担になります。

※各返金制度の利用期限以降の返金については、申込規約にある当社規定に則り計算した金額を返金いたします（振込手数料はお客様負担）。

※各返金制度の詳細は、TAC各校までお問い合わせください。

⑤ 使用課題、教室における交換添削・持ち帰り添削について

講義回数	使用課題	グループ返却	自己チェック	グループ学習	講師による持ち帰り添削の内容
1	課題1 (作図練習課題)	—	—	—	持ち帰り添削はなし
2	課題2	—	—	—	初学者：作図表現 受験経験者：作図・エスキス
3	課題3	—	—	—	初学者：課題の読み取り～1/400エスキス 受験経験者：作図・エスキス
4	課題4	○	—	—	初学者：エスキスフロー・作図 受験経験者：作図・エスキス・時間管理
5	課題5 応用課題5 (宿題)	○	○	○	課題5用 添削評価シートによる添削
6	課題6 応用課題6 (宿題)	○	○	○	模試専用添削評価シートによる添削 →4つの評価 (A、B、C、失格) による判定
7	課題7 応用課題7 (宿題)	○	○	○	課題7用 添削評価シートによる添削
8	課題8 応用課題8 (宿題)	○	○	○	模試専用添削評価シートによる添削 →4つの評価 (A、B、C、失格) による判定
9	課題9 応用課題9 (宿題)	○	○	○	課題9用 添削評価シートによる添削
10	課題10	○	○	○	課題の持ち帰り添削はなし 当日の課題10は講義内でのエスキスチェックのみ

※各教室では、受講生最大15名に対して講師1名が担当し、巡回指導、添削、答案の返却指導等を実施します。

※課題1～10（作図練習課題含む）＋応用課題5～9＝**全15課題**です。

※**教室講座、オンラインライブ通信講座は9課題、Web 通信講座は8課題が添削対象課題**となります。

※教室では実習中の**巡回指導**、図面の**添削・返却指導**の他、添削済み図面の**グループ返却**、当日実習課題についての添削評価シートを使った**自己チェック**、当日実習課題完成後の**グループ学習**（グループディスカッション）等を通じて、他の受講生の作図やエスキスを見る機会、またミスの共有が可能です。

- ①当日の実習前にミスを共有することで、同じミスを回避して実習ができる
 - ②他の受講生の作図やエスキスを見る機会を設けることで学習効果が上がる
 - ③図面のチェックをすることに慣れる
 - ④チェック項目の重要度を理解することで、計画や作図における優先順位を身に付ける
 - ⑤受講生同士でコミュニケーションを取ることで、学習のモチベーションが上がる

※各回の**宿題**は「**実習課題のリトライ**」及び「**応用課題のエスキス**（ある場合）」を基本とします。

※**マイページ**の利用により、講義動画を復習で繰り返し視聴したり、分からない箇所について質問メールを送ることもできるほか、各課題一式がアップされるので、出力して何度も繰り返し課題を解くこともできます。

※「製図用具の使い方」、「作図手順の解説」、「超速作図法」、「作図タイムトライアル」など、**レベルに合わせた作図動画**をご用意しています。

VI. 開講までの準備

1. お申込みはお早めに（定員制のため、既に募集を締め切った教室もございます）

※マイページにアップされている「事前作図練習教材」、「作図動画」により、お申込み後、すぐに「作図の練習」を始めることができます。

2. 学習環境の確保と周囲の理解

家庭での学習場所（TAC自習室も可）、家庭や職場の理解を得ることも大切です。

3. 製図用具等の準備

- ・製図板を早めに購入すること。

マイページに「建築士製図用具セットご案内」が掲載されています。注文から納品まで1週間程度かかります。

セ ッ ト に 同 封	テンプレート	TACオリジナルテンプレート（受付窓口でも購入可）
	三角スケール	15cm（30cmもお奨め）
	三角定規セット	
	ハケ	
	メンディングテープ （ドラフティングテープ）	マグネットプレートはお奨めしない
	シャープペン	0.5 mm Bを標準とする
	ペン型消しゴム	
	シャープペン替え芯	
	字消し板	
電卓		プログラム機能を有しないもの（詳細は受験票を確認）
ペンケース、道具入れ等✕		※注意 下記参照
フローティングディスク		定規とテンプレートの下面に貼って図面の汚れを防ぐ
蛍光マーカー		ピンク、黄、緑、青の4色程度
フリクションペン（赤・青）		課題文チェック用、完成図の自己チェック用
ストップウォッチ		時間管理を行うための必須アイテム （音の出る機能の使用は不可）
A4ファイル		講義録の保管用
タブレット用手袋		手汗等による図面の汚れを防ぐので、あると便利
滑り止めマット		製図板の下面に敷き、机からの滑り落ちを防ぐ

※令和5年試験より、試験当日の携行品に関して「携行できないもの」に筆記用具等収納ケースが追加されたのでご注意ください（次頁参照）。

※令和8年試験より、「携行できるもの」に法令集が追加されました。教室講座では講義2で2026年度版TAC法令集+追録を配布します（線引き、インデックス貼付けは講義で案内）。

4. 「ホテル」について書籍やインターネットなどで各自調べてイメージしておくこと

5. 試験当日の「携行できないもの」の追加

資料6 筆記用具等収納ケースについて

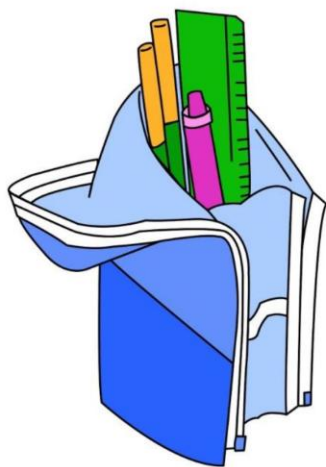
注 意

例示のようなペンケース、ファイルボックス等の筆記用具等を収納できるもの（機能が類似しているものを含む。）は、試験時間中には使用できません。机の上に置かず、かばんの中にしまってください。使用した場合には、退場を命じますので、十分注意してください。

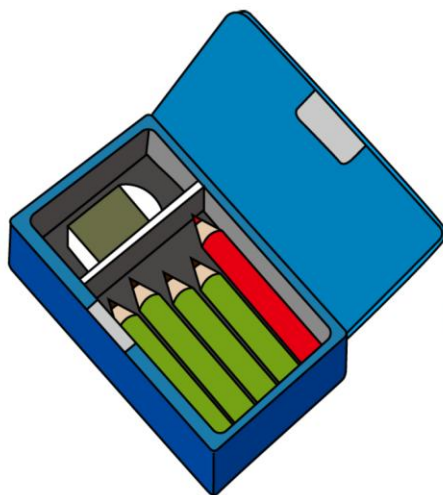
試験時間中は「必ず携行するもの」「携行できるもの」以外のものは、使用できません。

なお、衣類のポケット等を使用して、筆記用具等を収納する行為も不正行為となりますので、十分注意してください。

■筆記用具等収納ケースの例示



例 1



例 2



例 3



例 4



例 5

祈合格

適正な価格、質の高いコンテンツで、一緒に合格を勝ち取りましょう！